

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	38259
事業名	働く世代への健康増進アプローチ研究費					
評価担当課	所属名	保)保健所 健康企画課				
	課長名	関 靖子	担当者名	布施 絢乃	電話番号	011-622-5151
施策名	主	地域で共生する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	働く世代に効果的なアプローチ手法を検証し、確立する。				
		働く世代に効果的なアプローチ手法を検証し、確立することにより、企業の自主的な活動を促進する。				
	取組内容	健康さっぽろ21(第二次)の中間評価を踏まえ、健康課題の多い働く世代を対象に、健康意識の向上と健康行動の継続に効果的なアプローチ手法の確立に向けて、効果検証を行う。 効果検証では、アプリ等のICTを活用したインセンティブ付与を伴う健康増進プログラムを試行実施し、健康意識別の健康行動の継続要因等を分析する。 効果的な介入方法を踏まえ内容の修正、試行実施を継続し、データを蓄積する。検証結果を公表し、将来的には、企業の自主的な従業員の健康増進に係る取組を推進する。				
	実施結果	令和2年11月から健康増進プログラムのプレ運用を開始し、令和3年度より本格的運用を開始。アプリ活用による健康行動への効果的な介入方法の検証として、アンケートやキャンペーンなどを実施し、令和4年度に最終評価を行った。事業前後でアプリ参加者の平均歩数に1124歩の増加がみられた。				
事業実施における工夫点	アプリの通知機能を活用し、キャンペーンの周知や健康行動に応じたインセンティブ付与により参加者の健康づくりへの意欲が維持されるよう試みた。					
対象者	中小企業等で働く従業員			開始	平成31年度	終了 令和4年度
関連法令・条例・要綱等	健康増進法					
他都市の状況	筑波大学、㈱ウェルネスリサーチ等インセンティブ付与によるアプローチである健幸ポイントプロジェクト等により、一定程度効果があることが実証されている。					

◎事業費

(単位:千円)

		令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費		10,321	15,000	10,989	0
うち特定財源		0	0	0	0
人工		2.0	2.0	2.0	0.0
人件費		14,400	14,400	14,400	0
計(事業費＋人件費)		24,721	29,400	25,389	0
事業費 の内訳	令和4年度決算	○働く世代への健康増進アプローチ研究事業運営業務委託(10372千円) ○プロジェクト会議等 謝礼(298千円) ○その他 備品等(319千円)			
	令和5年度予算	なし			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	健康行動の継続に効果的なアプローチ手法の確立								
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定						
		—	確立	確立	—						
活動指標2		指標名									
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定						
成果指標1		指標名									
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標						
成果指標2		指標名									
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標						
項目	判定	理由									
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	研究事業参加者に対し、アプリを利用した健康行動変容アプローチとして、歩数計測や食事管理、健康情報発信といったツール提供や、健康づくりを促す機会の提供として市内公園やマラソン大会とのイベントコラボといった外出促進キャンペーンなどを実施。PHRの見える化にアプリは有効であったが、アプリや健康行動変容の継続には周囲からの働きかけが重要であること、従業員の取組には職場の管理者からの働きかけが効果的であることが知見として得られた。									
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	参加者のうち、アプリ利用者(介入群)は市内中小企業から選定し、対照群として健診データの提出があった健康保険組合の協力を得ることで、R1～R3年度のデータの比較分析が可能となった。参加費は徴収せず、日常生活の中で健康を意識した行動ができるようにアプリを通じて働きかけかける事業とした。									
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	委託業者と研究機関としての大学が参加するプロジェクト会議が定期的に開催され、事業の進捗状況の確認や必要なアプリ改修、キャンペーン・アンケート内容などの共有・検討により、効果的な取組みとなるよう努めた。									
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	アプリ利用者へアンケートを実施したほか、健康行動取組状況や歩数の年間推移を分析し、インセンティブ付与割合の調整やアプリ改修をすることで利用者のニーズに込えた。									
市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外		市民参加結果への対応	☐ 回答 ☐ 反映							
今後の改善点	得られた知見をもとに、成人期に対する効果的な健康づくり事業を展開していく。										
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし										
今年度取り組んだ見直し内容	上半期～下半期前半は、外出促進キャンペーンによる休日の歩数増加を促進し、下半期後半は事業の成果をまとめた。			見直し効果額 (前年度)	0	千円					
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし										
評価の理由	プロジェクト会議において成果の共有を行いながら、データ分析を進めた。最終年度は新規募集やイベントコラボを年度途中で終了し、分析期間を設けることで年度内に分析を終えることができた。										
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☐ 改善 ☐ 現状維持 ☒ 休止・廃止									
		令和4年度は事業終了とし、得られた知見と構築したネットワークを活用し、成人期に対する効果的な健康づくり事業を展開していく。									
	予算	☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☒ その他			見直し効果額	0					
既存の事業において、実施していく。(終了)					千円						